

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

NYK

plus

NYKプラス
vol.3 2008 Spring

[特集]

モノはこび最前線・自動車をはこぶ

日本の基幹産業・

自動車生産を支える輸送





「24 Peaks 2007」に参加したグループ社員



気軽に参加できるチャリティーマラソン
走ることが社会貢献につながる大会には大勢が参加

24時間以内に24の山を登る
「24 Peaks 2007」



マッチングギフトとは…社員が有志で福祉団体などに寄付を行う際、企業もそれと同等の額を上乗せして寄付する制度

参加したグループ社員は全員、完走を果たした

「24 Peaks 2007」が東京で行われました。NYKグループではこの大会を「NYKグループチャリティーマラソン」と題して参加者を募集し、当社グループ10社から53人が参加しました。この企画では当社が参加者の走行距離に応じた寄付金を拠出する一方で、大会の趣旨に賛同した参加者の家族や友人・同僚が義援金を出しました。

当社グループ社員が走った距離は合計796315キロ。1キロ当たり100円に換算され、寄付金は7万9700円に。また義援金6万4300円にはマッチングギフト(※)を行い、総額2万8825円が「難民を助ける会」へ寄付され地雷廃絶活動に役立てられます。

Corporate Citizenship 日本郵船の社会貢献活動

走って登って参加する チャリティーイベント

- ■ ■ ■ 24 Peaks 2007
- ■ ■ ■ NYKグループチャリティーマラソン

2007年7月に英国で海事関係者を対象とした義援団体が主催するチャリティーイベントの1つ、「24 Peaks 2007」にNYK Group Europe社など3社から8人が参加しました。このイベントは参加チームが義援金として5000ポンド(約123万円)以上集めるとともに、英国湖水地方にある標高700メートル以上の24の山を24時間以内で踏破するというもの。NYK Group Europe社が運営する基金や社内外からの義援金は総額7000ポンド(約173万円)に達しました。

また、2008年1月、参加費の一部が認定NPO法人「難民を助ける会」に寄付される「第9回谷川真理ハーフ



日本の基幹産業・ 自動車生産を支える輸送

世界的に自動車の需要が急増していることを受け、日本の基幹産業である自動車生産が好調だ。日本で生産された自動車は、どのように海外へ輸出されているのだろう。日本郵船が運航する自動車専用船での荷役の様子をレポートする。

上/船内のスロープを走る自動車
下/日本郵船の自動車専用船
"APHRODITE LEADER"

独自のノウハウと経験が可能にする輸送

朝

の8時30分、名古屋港弥富ふ頭に日本郵船の自動車専用船「APHRODITE LEADER」が着岸した。この船は昨年12月に就航したばかりの国内最大級の自動車専用船。小型乗用車換算で6500台が積載可能だ。最近は大きめの自動車主流なので、実際には約5200台が積載できる。自動車専用船がほかの船と異なるのは、その積載方法。RORO(Roll On/Roll Off)式といって、貨物(自動車)に専門のドライバーが乗り込み、貨物を自走させて船に乗り込む。船と岸

ダメージを与えないよう、荷役にも細心の注意が払われる。たとえば、固縛に使用する用具があたつて傷を付けることのないよう、金具部分はビニール素材で覆われている。

現場では「ギヤング」といわれるクルーが組まれる。一つのギヤングは、ドライバー5人とパーキング作業員4人、ラッシュャー5人、足車のドライバー1人の計15人で構成されている。今日の現場では2ギヤングが作業中。そして、現場全体の指揮をとるのがフォアマンだ。

船の内部は12フロアに分かれていて、まるで立体駐車場のよう。積載する自動車の車高に応じて、一部のフロアの高さが変更できるようにしている。

空いているスペースに自動車を積んで

壁を結ぶのは、船の側面や船尾にあるランブウェイ(橋)だ。

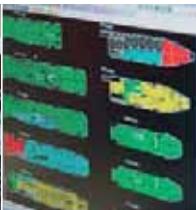
今日、積載予定の自動車は411台。ずらりと岸壁に停められ、荷役の時を待っている。まずはドライバーが広い船内を歩いてルートを確認。そして9時45分、いよいよ荷役開始だ。ドライバーが自動車に乗り込み、次々と船内に向かって車を走らせた。船内の決められたスペースで車を降り、パーキング作業員と運転を交替。パーキング作業員は車間距離が前後30センチ、左右10センチになるよう、びたりと駐車していく。

停められた自動車専用の資材で固縛していくのはラッシュャーの担当だ。その間、運転を終えたドライバーたちは足早に送迎用の「足車」に乗り込み、岸壁に戻る。次の自動車を荷役するためだ。

ほかの貨物と異なり、自動車は梱包されていない非常にデリケートな貨物。荷姿はそのまま販売時の姿と同じだ。



積載プランの一例



左/自動車専用船に精通したプランナーが積載プランを立ていく
上/各フロアを揚げ地別に色分けして表示した画面



いくのだが、どこでもいいというわけではない。できるだけ空きスペースのないよう、積載する必要がある。効率よく積載・荷揚げするために、事前に詳細な積載プランを立てるのが、日本郵船本社のプランナーだ。全メーカー・全車種の詳細なデータと、自動車専用船の図面をもとにプランニングしていく。独自のノウハウと経験が必要な仕事だ。

自動車は、車種によりサイズが異なる上、同じ車種でも欧州仕様とアジア仕様とではサイズが異なる。また、自動車の重さも考慮しなければならず、ハイブリッド車のような重い自動車は余裕をもって配置していく。

さらに、どの揚げ地での自動車を降ろすのか、ということも重要だ。最



上/車間距離は左右わずか10センチ。まるで神業
左・下/自動車を固定するラッシング



左/立体駐車場のような船内を走る
下/次々にランプウェイから乗船していく



上/荷役は船体後方のランプウェイから
下/乗船する“足車”

積み替え輸送で効率的に自動車を世界へ



上/岸壁に並ぶ荷役予定の自動車
下/フロントガラスの紙には揚げ地などの情報が



初に着いた港で降ろすはずの自動車が、一番奥にあったのでは荷揚げできないからだ。
途中、45分間の休憩をはさんで、13

時30分に荷役作業は無事完了した。明日は名古屋港新宝ふ頭でさらに数千台を積載する予定。その後、船は日本を離れ、シンガポールを経由してオマーン、ドバイ、アブダビへと向かう。

近 年は世界的に自動車需要が急増しているため、自動車専用船は不足気味。より効率的に輸送する必要がある。そのため、主要な港と主要な

港の間を大型の自動車専用船で輸送し、その先の小さな揚げ地へは小型船輸送するという「積み替え輸送」が主流になりつつある。

さらに、日本郵船ではベルギーのジューブルージュや中国の天津、広州などの主要港で、自動車専用ターミナルを運営している。これは日本郵船ならではの取り組みだ。自社運営にすることで、高度な技術が必要な自動車の荷役を安全・確実に行うことができ、広大な駐車スペースを確保できる。

大型自動車専用船の就航や、効率的な輸送スタイルの提案、専用ターミナルの運営といった日本郵船の取り組みは、日本の基幹産業・自動車生産を支えている。



巨大なプラント機器の荷役。現場に緊張感が走る



特殊な貨物を積むため、事前検証は重要な作業



現場での急な変更にも臨機応変に対応

計算と経験を駆使して重量物を積む

「この貨物をどうやって吊るか」。鎌倉の大仏さま（121トン）より重く、大きさも形もばらばらな貨物を運ぶのが珍しくない重量物運搬船。藤田さんは、そうしたたいくつもの重い貨物を効率よく積む方法を検討・決定している。営業部門が獲得した貨物を「積むスペースはあるか、積んだときに船は大丈夫か、揺れたときに貨物の移動力はどの程度か、（貨物を止める）固縛はワイヤーにするか溶接止めにするか、積み順は…」など山ほど検討する。

船の図面を見てCADやコンピュータを使って計算し、顧客とも打ち合わせながら荷が傷まない積み付け方法を考えなければならぬ。

計算だけではわからないことも多い。

藤田さんは商船大学卒業後、船に乗っていた。現場を知っているからできることも多いという。

船積みするときには現場監督も務める。手配どおりに貨物が入らないことや貨物の大きさや重量が事前の連絡と違うこともあり、現場でアレンジし直すことも珍しくない。重量物を吊るクレーンを操作する際には、操作する人の技量を見ながら、巻き上げ速度や傾きなどを指示することもある。船があまり傾かないようにバラスト（重し）水もチェックしなければならない。

重量物船の積み付けは貨物の形や重量が千差万別で、マニュアル化が不可能といわれるほど難しい。その分「面白い」仕事である。



藤田伸吾さん

日之出郵船 海技グループ
海技チーム 課長代理

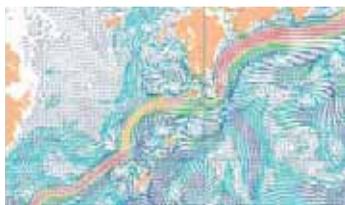
日本郵船の安全と環境への取り組み

日本郵船では、小さな環境負荷での“モノはこび”を目指しています。安全運航の徹底は最大の環境保全。事故を防止し、環境への影響を食い止めます。また、設備や業務プロセスの改善により、CO₂などの排出量低減を目指しています。

海流予測情報活用

黒潮に乗って省エネ航行実現
VLCC7隻から本格利用

大洋をほぼ一定方向に動く海水の流れが海流です。流れの幅や速さは絶えず変動します。詳しい海流情報を利用し、速い流れに乗って船を走らせることにより、地球に優しい航行が可能となります。日本郵船は、「海流予測情報利用有限責任事業組合」が提供する海流予測情報を本格的に利用し、まず中東から日本に向かう大型タンカー17隻で、黒潮をより有効利用した省エネ運航を開始しました。



赤い部分が海流の最も速いところ

台湾から日本の間で黒潮の最大流速は3ノット以上となります。大型タンカーの航海速力の2割に相当するスピードです。2006～2007年に、日本郵船はこの海域において大型タンカー13隻、計23航海で海流活用の実証実験を行い、従来の海流予測図に基づいた航行と比べ、当該海域での燃料消費量とCO₂排出量を最大9%削減できることを確認。他船社に先駆け本格利用に踏み切りました。

環境特命プロジェクト

ダントツの環境先進企業目指す
中期経営計画の最重要課題に

「成長」「安定」「環境」。日本郵船は2008～2010年度中期経営計画の最重要課題の1つとして「環境」をとらえ、ダントツの環境先進企業グループを目指します。

その一環として4月に「環境特命プロジェクト」——NYK COOL EARTH PROJECTを立ち上げ、社長直属の「環境特命プロジェクト事務局」を設置しました。

このプロジェクトでは①CO₂やその他のガスの排出量を極限まで



技術開発の一例(自動車専用船)

削減するための機器開発など革命的イノベーションへの挑戦②政府間、IMO(国際海事機関)、経団連など国内外の機関で行われる政策討議への適切な対応③環境関連の設備投資増や燃費削減などによる経済効果の適正な把握と評価④減速航行など環境問題に対応したビジネスモデルへの変革⑤環境保全に関する諸々の社会貢献——の5つの課題に取り組んでいきます。

● 2007年10月～2008年3月 ●

■ 「働きがいのある会社」調査で第7位に

Great Place to Work[®] Institute Japan(以下“GPTW”)が実施する、第2回「働きがいのある会社」調査で、当社が第7位に選ばれました。GPTWでは、「従業員が会社や経営者、管理者を信頼し、かつ自分の仕事に誇りを持ち、一緒に働いている人たちとの連帯感が持てる会社」を「働きがいのある会社」と定義付け、GPTW評価委員会が認めた企業を公表しています。

■ 燃料節減効果の高い省エネ装置開発

グループ会社MTIとツネイホールディングスは、燃料節減効果を期待できる新たな船体付加物“MT-FAST”を開発しました。“MT-FAST”は、プロペラ前方に複数の翼を取り付けることで、プロペラの回転から生まれる旋回流による損失エネルギーを回収する効果があります。実験で約4%の効果が確認されています。新造船だけでなく既存船への取り付けも可能です。



■ ヤマトグループとの戦略的提携を強化

日本郵船とヤマトホールディングスは、戦略的提携強化のための新体制を、2008年度上期中をめどに構築していくことで基本合意書を締結しました。「航空フォワーディング事業の一体的運営」「国際貨物の国内一括集配ネットワークの構築」を核に新体制を構築することで、お客さまへ「輸送品質の向上とトータルコストにおけるメリット」を提供していきます。

■ 新中期経営計画“New Horizon 2010”発表

2008年度から3年間の新中期経営計画“New Horizon 2010”を発表しました。①海運事業の拡充②ロジスティクス・インテグレーターへの飛躍③企業基盤の強化——を柱に総合物流企業への道を歩んできましたが、この路線をさらに発展させ、3つの基本戦略「成長」「安定」「環境」の下、「モノ運び」グローバル企業を目指す、さらなる増収増益を達成していきます。



■ 東京エルエヌジータンカーと長期傭船契約

東京エルエヌジータンカーと新造LNG(液化天然ガス)船1隻の共同保有および20年間の長期定期傭船契約に関する基本協定を締結しました。また、川崎造船と本契約で使用する17万7000m³型新造LNG船1隻の造船契約も締結しました。新造船は2011年の竣工後、東京ガス向けLNGプロジェクトに投入される予定です。

■ サントペテルブルク向けフィーダー開始

アムステルダム(オランダ)、ハンブルク(ドイツ)、サントペテルブルク(ロシア)、コトカ(フィンランド)を結ぶ、新フィーダーサービス:BAX(Baltic Express Service)を2007年12月12日から開始しました。本サービスは当社が提供するグランドアライアンスのアジア/欧州サービスと、ハンブルクまたはアムステルダムで接続します。

■ 上海港・大小洋山ターミナルへの投資参画

上海国際港務(集団)有限公司(Shanghai International Port (Group) Co., Ltd.)が開発する大小洋山コンテナターミナル第3期Bへの共同投資者に内定した旨の通知を上海市当局から受けました。現在、北米・欧州・アジア航路など週22便が上海港に寄港しています。



■ 2年連続で「最も持続可能な世界の100社」に

日本郵船は、「Global 100」として知られる「最も持続可能な世界の100社」に2年連続で選出されました。「Global 100」の発表は、毎年スイスのダボスで開かれる世界経済フォーラムの年次総会(ダボス会議)の場で行われており、今年は1月23日開催の同会議で公表されました。昨年、日本の海運会社として初めて選出され、それに続く受賞。



NYKのある街 ◆◆◆

Mumbai ムンバイ インド



世界遺産に登録されているチャトラパティ・シヴァージー・ターミナス駅

急速な経済発展を続けるインド。中でも国内最大の商業都市としてインド経済をけん引するのがムンバイ(旧ボンベイ)だ。

アラビア海に面する天然の良港だったこの町は、16世紀にポルトガルに攻略され、17世紀に英国王とポルトガル王女の結婚の際、英国に贈与された。19世紀に多くの綿紡績工場が建設され、経済的発展を遂げた。

1893年、日本郵船はタタ商会と共同でボンベイ航路を開設。以来、1世紀を超える日本郵船との信頼関係は、タタグループへと受け継がれている。現在、ムンバイにはNYK Line(India)社など現地法人3社の本店があり、急成長を続けるインド市場で活躍している。



NYK Line(India)社が入るビル

海事用語 A to Z

TOPICS&NEWSで
ご紹介した記事の中から、
わかりにくい専門用語を
解説します。

【造船契約】 〈ぞうせんけいやく〉

海運会社が造船所に船を発注する際に交わす契約。船の世界はドルが基軸通貨なので、日本の会社同士でも契約はドルで交わされることが多い。また金額が大きく建造期間も長いことから、代金の支払いは4~5回に分けて行われる。金額が大きい割に契約書は薄い。海の男同志、長々とした能書きは不要、ということかもしれない。

【フィーダーサービス】 〈ふいーだーさーびす〉

コンテナ取扱量が少ない小規模な港と、主要航路の大型コンテナ船が直接寄港する大規模な港を結び、貨物の接続役を果たすサービス。複数の小規模港を回って貨物を集め、集めた貨物を主要港で北米航路や欧州航路などの基幹航路に積み替える。また、主要港で基幹航路からの貨物を積み取り、近海各地に輸送する役割も担う。

【グランド・アライアンス】 〈ぐらんど・あらいあんす〉

日本郵船、ハパックロイド(ドイツ)、OOCL(香港)、MISC(マレーシア)の4社で形成する船社提携の名称。運航コンテナ船をプールすることで1社では不可能な、広範なサービスの提供が可能となる。また、スケールメリットを生かし運航コストを大幅に削減できる。1995年に結成され、2006年2月、現行体制となった。

【コンテナターミナル】 〈こんてなたーみなる〉

コンテナ船が接岸し、コンテナ貨物の荷役を専門に行う埠頭のことで、海と陸とを結び付ける機能を持つ。貨物の積み降ろしを行うガントリークレーン、ターミナル内でコンテナを動かすトランスファークレーンなどの荷役機器が常備されている。輸入の場合、港に到着した貨物はターミナルから鉄道、トラックで最終目的地まで運ばれる。

【アジア航路】 〈あじあこうろ〉

一般的にアジア航路というと、シンガポール以南の東アジア地域を指すが、広義にはインドや中東地域を含めることもある。距離の長い北米・欧州航路とは異なり、東アジア地域内では数多くの航路が集中、複雑なサービス・ネットワークが形成している。サービスを提供している船会社も多いため、競争は激しい。

【フォワーディング】 〈ふおわーでいんぐ〉

フォワーディングとは、荷主と運送業者との間に立って行う貨物の運送取扱や、運送事業者による運送を利用した運送業務を指す。こうした業務の事業者をフォワーダーと呼ぶが、海上輸送分野では、自らは船舶を運航せず、船会社のサービスを利用し輸送するためNVOCC(Non Vessel Operating Common Carrier)と称することもある。



エンターテインメント

フォーシーズン・ダイニングルーム

エキゾチックな 三都をめぐる船旅

飛鳥IIクルーズスケジュール (2008年11月~2009年7月)

- 横浜発着 秋のA-styleクルーズ** 《横浜発着》
 2008年11月22日 日 ~ 24日 日・金 旅行代金 110,000円~400,000円
- 2008年オリエンタルクルーズ** 《横浜・神戸発着》 **アスカサイトキャンペーン**
 2008年11月26日 木 ~ 12月10日 木 旅行代金 576,000円~2,632,000円
- Xmas 横浜・神戸ワナナイトクルーズ** 《横浜発/神戸着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月11日 木 ~ 12日 金 旅行代金 52,000円~180,000円
- Xmas 神戸ワナナイトクルーズA** 《神戸発着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月12日 金 ~ 13日 土 旅行代金 50,000円~180,000円
- Xmas 神戸ワナナイトクルーズB** 《神戸発着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月13日 土 ~ 14日 日 旅行代金 52,000円~180,000円
- Xmas 神戸・名古屋ワナナイトクルーズ** 《神戸発/名古屋着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月14日 日 ~ 15日 月 旅行代金 50,000円~180,000円
- Xmas 名古屋ワナナイトクルーズ** 《名古屋発着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月15日 月 ~ 16日 火 旅行代金 52,000円~180,000円
- Xmas 横浜ワナナイトクルーズA** 《横浜発着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月19日 木 ~ 20日 金 旅行代金 50,000円~180,000円
- Xmas 横浜ワナナイトクルーズB** 《横浜発着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月20日 金 ~ 21日 土 旅行代金 52,000円~180,000円
- Xmas 長崎・別府クルーズ** 《横浜発着》 ※区間設定あり **スイートルーム体験キャンペーン**
 2008年12月21日 土 ~ 26日 木 旅行代金 250,000円~900,000円
- 年末年始 グラム・サイバークルーズ** 《横浜発着》 **ハッピーファミリークルーズ**
 2008年12月26日 金 ~ 2009年1月4日 日 旅行代金 486,000円~1,890,000円
- 2009年南太平洋グランドクルーズ** 《横浜・神戸発着》 **早期申込割引**
 2009年1月20日 木 ~ 3月15日 日 旅行代金 2,200,000円~11,500,000円
- 神戸発着 春の日南クルーズ** 《神戸発着》 **スイートルーム体験キャンペーン**
 2009年3月16日 日 ~ 18日 火 旅行代金 102,000円~380,000円
- 名古屋発着 春のA-styleクルーズ** 《名古屋発着》
 2009年3月20日 金・土 ~ 22日 日 旅行代金 110,000円~400,000円
- 南西諸島・台湾 悠々クルーズ** 《横浜・神戸発着》 **熟年割引**
 2009年3月27日 日 ~ 4月9日 火 旅行代金 611,000円~2,509,000円
- 2009年世界一周クルーズ** 《横浜・神戸発着》 **早期申込割引**
 2009年4月12日 日 ~ 7月25日 日 旅行代金 4,250,000円~20,000,000円

早期申込割引 = 早期申込割引代金が設定されています。 ※

熟年割引 = 満65歳以上のお客様に10%割引があります。 ※

アスカサイトキャンペーン = アスカサイトがお得な代金でご利用になります。

スイートルーム体験キャンペーン = スイートルームがお得な代金でご利用になります。

ハッピーファミリークルーズ = お得な子供代金が設定されています。

※の割引を適用の場合、株主優待割引券はご利用いただけません。ご了承ください。

お問い合わせ

郵船クルーズ

TEL 03-3284-6001 FAX 03-3284-6005
http://www.asukacruise.co.jp/

香港



上海



台湾

多彩なバリエーションの飛鳥IIクルーズに、今年、上海・香港・基隆(台湾)の三名港をめぐる「オリエンタルクルーズ」が登場しました。

急速な経済発展を遂げ、日々変化し続ける上海は、一方で昔ながらの面影が残るレトロモダンな町。中国への返還から10年が経ち、ますますパワーあふれる香港では、グルメやショッピングを満喫できます。そして、大航海時代からの貿易港・基隆では、名物の夜市をお楽しみください。それぞれに個性的な三都市をめぐれば、エネルギーッシュなアジアの息吹を、身近に感じられるはずです。

美しい港町へは、ぜひ船で訪れたいもの。海からの眺めは、きっとドラマチックな旅を演出してくれるでしょう。



NYKと 衣類のはなし

最新ファッションをチェックしながらのショッピングは楽しいもの。中国やイタリア、ベトナムなど海外で作られた衣類は、NYKのコンテナ船で運ばれています。NYKの“モノはこび”は身近なショッピングにもつながっています。



日本郵船